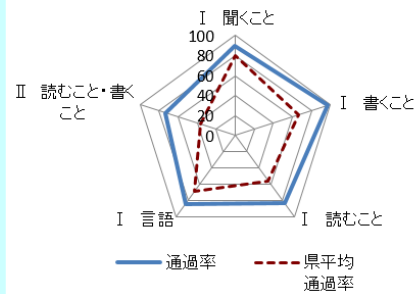


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 85.9%, 県 63.7%)

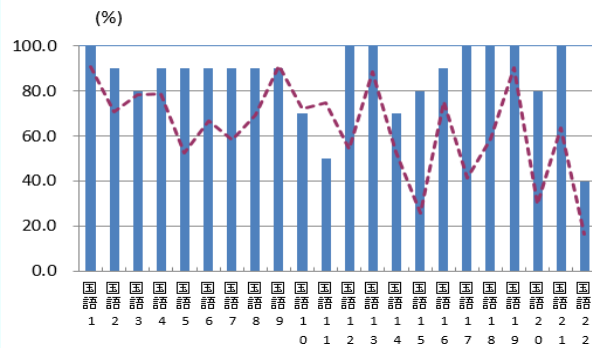
領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(国語)



## 本年度の結果について

- 国語科の結果、タイプⅠは87.9%、タイプⅡは73.3%の通過率となっている。この結果から、基礎的基本的な内容については、定着が図られていると考えられるが、読むこと・書くことの領域において、理由を挙げた記述に課題が見られる。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域で、接続語の理解と活用に課題が見られる。通過率が高かったのは、書くことの領域で97.5%の通過率であった。
- 昨年度は、慣用句の問題に課題が見られた。そこで、3学年「ことわざについて調べよう」の学習で、ことわざの意味や特徴を調べ、報告書にまとめる活動を行った。また、4学年「慣用句」の学習で、色々な慣用句を集めて意味や使い方を調べ、それを使った文作りをする取組を行った。その結果、本年度の通過率は90%であった。

### 重点課題

#### 【課題1】

○文と文の内容がどのようにつながっているか読み取れていない。そのため、接続語「そして」(順接)が選ぶことができていない児童が50%いる。(通過率 50%)

#### 【課題2】

○与えられた資料から条件に合う情報を取り出し、具体的な数値や名前を理由として挙げる記述の問題で、資料から必要な情報を取り出すことができないため、具体的な数値や名前が理由として書けていない児童が60%いる。(通過率 40%) この問題は、昨年度も課題として挙げられていた。資料から必要な情報を取り出し、それを論理的に文章化する力がついていないと考えられる。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

○第4学年「文と文のつながり」の学習で、接続語の意味や役割を指導し、接続語を使った文づくりや接続語ゲームをすることで、ふさわしい使い方を理解させる。また、説明文において、キーワードと接続語と矢印などを使った文章構成図を書かせることで、文章を分析的に読む力をつける。

#### 【課題2】

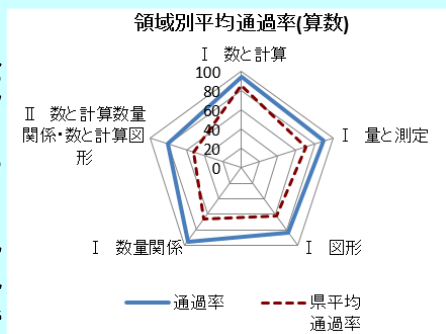
○第4学年「段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう」の学習で、説明の文を読み指示語や接続語が文や段落の関係を示す手がかりになることを見つけさせる。そして指示語や接続語を用いて文章全体の構成を考えて書く指導を行う。  
第5学年「説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう」の学習で、グラフ、図、表と文章を関連させながら説明されていることを読み取る指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年 学期末テスト	4学年「文と文のつながり」 単元末テスト		4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値				平均通過率 80%以上	平均通過率 80%以上		平均通過率 75%以上	平均通過率 80%以上
実施後数値				90%	100%			

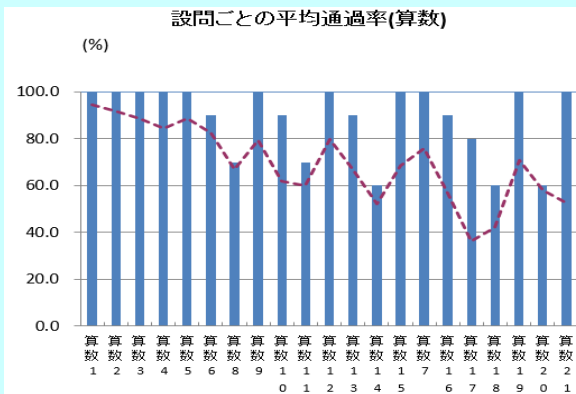
【課題2】	9月	10月	11月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			4学年「段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう」 単元末テスト	5学年「天気を予想する」 単元末テスト	全学年 学期末テスト		4学年 H28「基礎・基本」	全学年 学年末テスト
目標値			平均通過率 80%以上	平均通過率 80%以上	平均通過率 80%以上		平均通過率 75%以上	平均通過率 80%以上
実施後数値			80%	87%	90%			

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 88.6%, 県 69.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

○算数科の結果、タイプⅠは91.3%、タイプⅡは80%の通過率となっている。この結果から、基礎的基本的な内容については、定着が図られていると考えられるが、グラフの中から複数の条件を関連させて問題を読み取らなければならないタイプⅡの数量関係の領域において今年度も課題が見られる。また、図形の性質の理解が不十分であり、図形の領域においても課題が見られる。

○昨年度も同じ領域の同系統の問題に課題が見られた。「折れ線グラフと棒グラフの関連付け」の問題で通過率が50%だったが、今年度の通過率は60%と10ポイント上昇した。また図形の領域では、「平行四辺形の判断」の問題で通過率が62.5%だったが、今年度は「ひし形の判断」の問題で通過率が、60%だった。昨年度、課題の見られた問題を全学年の系統表から拾い出し、改善計画に明記し、各学年の単元末テストで見取ったが、本年度通過率は大きく上がり、改善は不十分であった。

### 重点課題

#### 【課題1】

○棒グラフや折れ線グラフから特徴や傾向を読み取る力が不十分である。「折れ線グラフと棒グラフの関連付け」の問題で縦軸と横軸を交差させながら値を読み取る力が定着していない。(通過率60%)

#### 【課題2】

○作図に用いられている図形の定義や性質を理解する力が不十分である。コンパスを使ってひし形をかき時は、辺がすべて等しいという性質を使うことが定着していない。(通過率60%)

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

- 1 学年「かずとすうじ」の学習で、ものの個数を絵や図などを用いて数える活動を行い、まとめて表すよさについて話し合う活動を行う。
- 2 学年「ひょう・グラフと時計」の学習で、好きな給食調べをおこない簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりする活動を行う。
- 3 学年「表とグラフ」の学習で、好きなスポーツ調べをおこない棒グラフにまとめ、数を読み取り気付いたことを交流する活動を行う。
- 4 学年「折れ線グラフ」の学習で、気温が変わっていく様子を折れ線グラフに表して読み取ったりグラフと関連付けたりする活動を行う。

#### 【課題2】

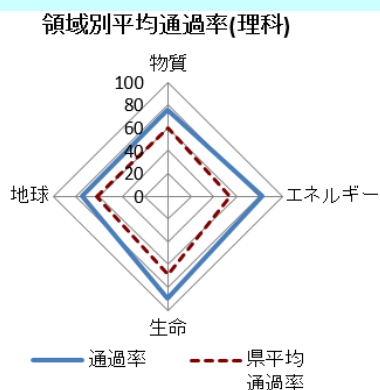
- 1 学年「いろいろなかたち」の学習で、様々な物を同じ形に仲間分けをしたり、形を写して絵に描いたりする活動を行う。
- 2 学年「三角形と四角形」の学習で、長方形や正方形の定義や性質を学習し、長方形や正方形を見つけたり理由を説明したりする活動を行う。
- 3 学年「三角形」の学習で、二等辺三角形や正三角形の定義や性質を学習し、二等辺三角形や正三角形の特徴をとらえながら説明する活動を行う。
- 4 学年「垂直・平行と四角形」の学習で、垂直や平行な直線のかき方を学習したり、様々な四角形の定義や性質を学習したりする。そして、作図や数きつめなどの算数的活動を行う。また、図形の定義をプリントにまとめさせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2月	3月
学年・方法	1 学年「かずとすうじ」復習テスト	2 学年「ひょう・グラフと時計」復習テスト	4 学年「折れ線グラフ」復習テスト	全学年 学期末テスト		4 学年 H28「基礎・基本」	3 学年「表とグラフ」 単元末テスト	全学年 学年末テスト
目標値	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上		平均通過率75%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上
実施後数値	100%	88.8%	84%	89%				

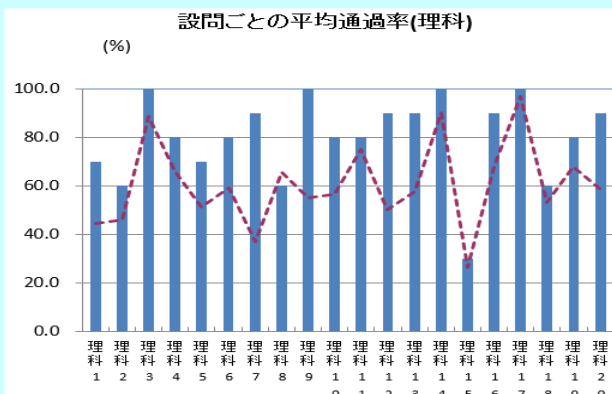
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2月	3月
学年・方法	4 学年「垂直・平行と四角形」復習テスト①	1 学年「いろいろなかたち」復習テスト	3 学年「三角形」単元末テスト	全学年 学期末テスト	2 学年「三角形と四角形」単元末テスト	4 学年 H28「基礎・基本」	4 学年「垂直・平行と四角形」復習テスト②	全学年 学年末テスト
目標値	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上	平均通過率75%以上	平均通過率80%以上	平均通過率80%以上
実施後数値	83%	97%	96%	89%				

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 80.0%, 県 60.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 理科の結果、タイプⅠは83.8%、タイプⅡは72.9%の通過率となっている。この結果から、「生命」の領域については、定着が図られていると考えられるが、「地球」「物質」の領域において、タイプⅡの通過率が低いという課題が見られる。特に「地球」の領域で、太陽の動きや影のつき方については理解できているが、その理由を理科の用語を使い順序立てて書くことができていない。
- 昨年度は「空気のあたたまり方と生活との関連」において、問題文の言葉に対する実際の空気の動きがイメージできていないという課題が見られた。そこで、目に見えない熱の伝わり方を文章で表現するとともに矢印等の図で表す活動を取り入れ、事象をイメージする力を高めてきた。その結果、今年度の同様の問題「水の温度と体積の変化と生活の関連」では、通過率が昨年度の約2倍となった。

## 重点課題

### 【課題1】

- 「太陽の動きと影の関係」の問題の通過率が30%である。太陽の動きや影のつき方については理解できているが、その理由を「方位」や「きまり」を使い順序立てて書く力が不十分である。

### 【課題2】

- 「物の重さと体積の関係」の問題の通過率が60%である。体積と重さの関係の理解が不十分である。また、問題文の中の文言とそれを表した図を関連付けて考える力も不十分である。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題1】

- 太陽の動きや影のつき方については、シミュレーションソフトや視聴覚機器を活用し、それを理科の用語を使って説明させた上で、実際の教室や学校での位置関係と関係付けて、ノートに絵や図を加えて整理させる。また、「方位」に関しては、理科だけでなく社会科や総合的な学習の時間にも声に出して確認させる。

### 【課題2】

- 物の形と重さの関係について、粘土などの身の回りにある物を平らにしたり、丸めたりするなどして形を変え、手応えなどの体感を基にしながら重さの違いを比較する。また、てんびんを用いたり、自動上皿ばかりを用いて重さを数値化したりすることで、物は形が変わっても重さが変わらないことをとらえさせる。体積と重さの関係について、粘土や砂などの身の周りにある物で、体積を同じにしたときの重さの違いを、手応えなどの体感を基にしながら比較する。また、てんびんを用いて比べたり、自動上皿ばかりを用いて重さを数値化したりすることで、体積が同じでも物によって重さが違うことをとらえさせる。

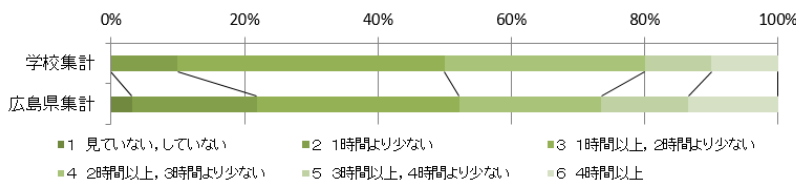
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	4学年「天気と1日の気温」復習テスト	3学年「かげのつき方と太陽の光」単元末テスト		3年～6年 学期末テスト		4学年 H28「基礎・基本」	3年～6年 学年末テスト
目標値	平均通過率 80%以上	平均通過率 80%以上		平均通過率 80%以上		平均通過率 75%以上	平均通過率 80%以上
実施後数値	89%	91.3%		86%			

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2月	3月
学年・方法				3年～6年 学期末テスト	4学年「ものの温度と体積」単元末テスト	4学年 H28「基礎・基本」	3学年「ものと重さ」単元末テスト	3年～6年 学年末テスト
目標値				平均通過率 80%以上	平均通過率 80%以上	平均通過率 75%以上	平均通過率 80%以上	平均通過率 80%以上
実施後数値				86%				

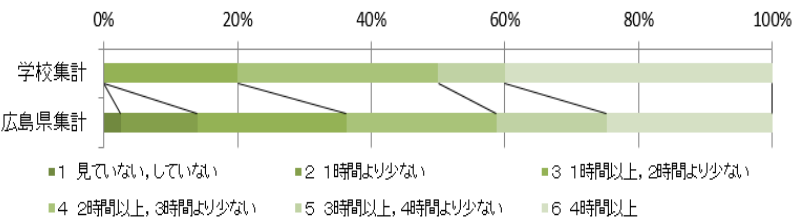
# 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

## （１）生活・学習

ふだん、1日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか。



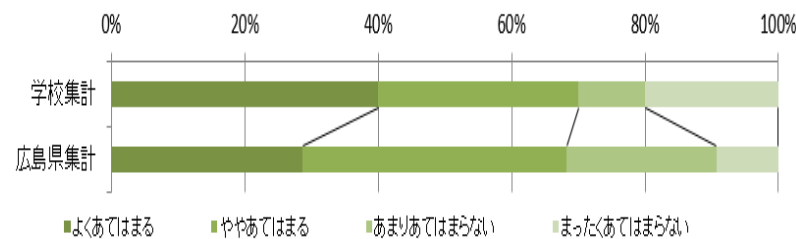
休日、1日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか。



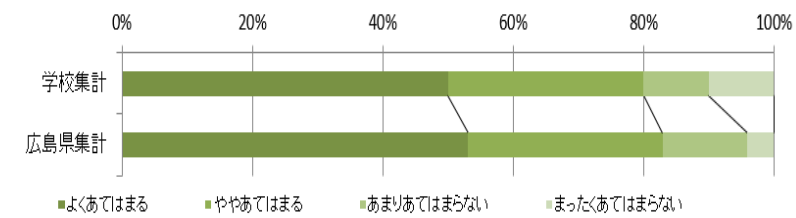
児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「ふだん1日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか」で、2時間より少ない割合は50%、また、休日では20%と回答している。さらに、4時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりしていると回答したのは、平日で10%、休日では40%もいる。	学期ごとの「家庭生活振り返り週間」において、「テレビとゲームの視聴時間が長い」ことを重点に置き、脳や視力との関係、健康面なども指導する。また、家庭生活振り返り表や学級懇談等を通して、保護者の意見も聞きながら、家庭との連携も図る。	全学年	4時間以上テレビやゲーム、平日0%、休日15%以内	家庭生活振り返り表	10月 1月	平日0% 休日0%	平日10% 休日40%

## （２）教科

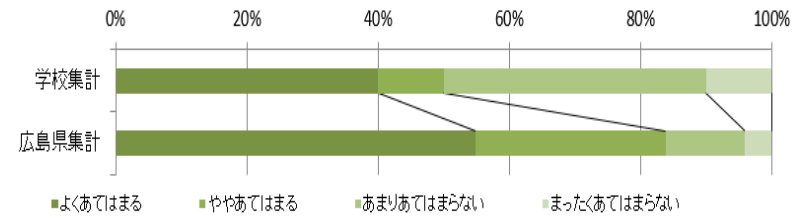
国語の勉強は好きです。



算数の勉強はよく分かります。



理科の勉強は好きです。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の勉強は好きです」と回答したのは70%で、好きではないとした割合は30%である。	授業において、ゲーム的な要素を取り入れた学習（例えば熟語やことわざ作り）をすることと、ゴールを明確にした単元を貫く言語活動を仕組み、児童がそのゴールに向けて目的や必要性を感じ、意欲的に学習できる取組を行う。	全学年	80%	アンケート	2月		
算数	「算数の勉強はよく分かります」と回答したのは80%で、分からないとした割合は20%である。	新しい単元に入る前には、必ずプレテストを実施し、前時までの学習内容の定着を確かめる。そして、補充指導を行い、スタートをそろえて新しい単元の学習に入る。さらに、単元末テストの前には到達度を見る練習問題を行い学力補充を行う。	全学年	85%	アンケート	2月		
理科	「理科の勉強は好きです」と回答したのは50%で、好きではないとした割合は50%である。	単元の導入、または単元の学習中に、児童が疑問を抱く投げかけを行った後、理科の学習内容と日常生活との接点を改めて考えさせたりすることで、理科の学習は現実とかけ離れた内容ではないと気付かせる。	3年～6年	75%	アンケート	2月		